

紅葉の遅れ 気温の上昇が影響か

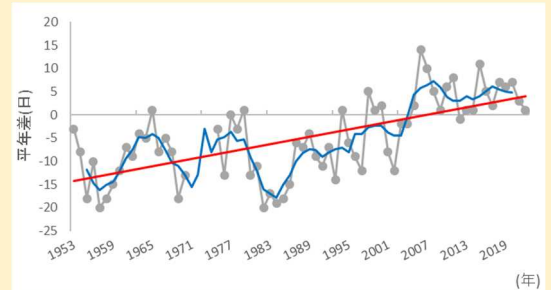
12月を迎え、今年も本格的な寒さがやってくる季節となりました。気象庁では、季節の遅れ進みや、気候の違い、変化など総合的な気象状況の推移を把握するため「生物季節観測」を実施しており、晩秋の風物詩である「いろはかえで」の紅葉もその対象の1つとなっています。

香川県の高松地方気象台においても「いろはかえで」の紅葉日*観測を実施しています。高松における「いろはかえで」の紅葉観測日は、10年あたり約2.6日遅くなっており、2022年は平年より1日遅い11月24日の観測となりました。

さくらの開花日が早まる傾向やかえでの紅葉日が遅くなる傾向は、現象が発現する前の平均気温との相関が高く、長期的な気温上昇の影響が要因の一つとして考えられています*。

※気候変動監視レポート2021(気象庁)より引用

いろはかえでの紅葉観測日(高松)の経年変化



気象庁ホームページのデータを用いて作図

— 折れ線(灰): 平年の紅葉日からの差
— 折れ線(青): 平年の紅葉日からの差の5年移動平均
— 直線(赤): 長期変化傾向
*平年は1991~2020年の30年平均(平年値は11月23日)

楽しく気候変動を知る! 気候変動いきもの大調査!

環境省は、コレクションアプリを使ってゲーム感覚で挑戦できる「気候変動いきもの大調査」を実施しています。地球温暖化の影響で、見られる場所や時期が変わった生き物の情報から地球温暖化を身近に感じてもらい、ひとりひとりの温暖化対策につなげることを目的としています。



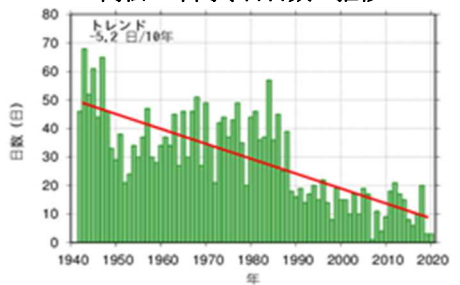
いきもの大調査はこちらから↑



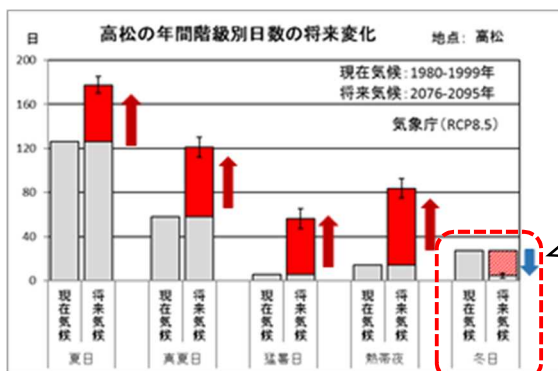
冬日日数の減少 気候変動は冬にも大きな影響が!

気候変動による気温上昇は、夏だけでなく冬も同様にみられており、高松の年間冬日*日数は、10年あたりおよそ5.2日の割合で減少しています。将来予測では、今後も減少するとされており、農業やライフスタイルへの影響が予想されることから、「適応」の取り組みが重要となってきます。

高松の年間冬日日数の推移



提供: 高松地方気象台



提供: 高松地方気象台

「RCP8.5 シナリオ」(追加的な緩和策を実施しなかった場合)では、21世紀末の高松における年間冬日日数は、さらに減少すると予測されています。(全国平均で20世紀末と比べて46.8±6.9日減少*)

※日本の気候変動2020(文部科学省・気象庁)から引用

※冬日とは、1日の最低気温が0°C未満の日のことを指します。
また、1日の最高気温が0°C未満の場合は「真冬日」と言います。

